

# 先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	自然言語処理学 (渡辺 太郎 (教授))		
学籍番号	2111054	提出日	令和 5年 1月 19日
学生氏名	大友 寛之		
論文題目	文章中の場所参照表現に対する訪問状態の予測		
要旨			
<p>古来、人々は地球上のさまざまな場所を訪れ、その場所に対する経験を自然言語で書き留めてきた。旅行記や紀行文はその代表であり、訪れた場所での経験や感想など主観的な情報が記述される。それらの文書に記述される情報を整理することにより、多様な応用が可能となる。例えば、観光地を実際に訪れた観光客の感想を自動で整理できれば、旅行プランニングや観光地推薦といった応用が期待となる。</p> <p>そこで本研究では、訪れた場所に紐づいた主観的な情報を文章から抽出することを見据えて、文章中の「場所」に書き手が訪れたかどうか推定する問題に取り組む。まず、データセット構築のために、訪問状態のアノテーション方針を策定した。そして、そのアノテーション方針に基づき、旅行記に対してアノテーションを行い、小規模なデータセットを構築した。複数人で訪問状態のアノテーションを行った結果、作業者間で高い一致率が確認された。さらに、構築したデータセットを用いて訪問状態を予測するモデルを構築し、その性能を評価した。分析の結果、モデルは訪問状態の手がかりとなるトークンに注意を向けており、人間の直感的な判断と類似する可能性が示唆された。</p>			